

野生植物研究所だより

● エノコログサ 通称 ネコジャラシ ●

今回は 皆さんもよくご存じの、通称ネコジャラシと呼ばれている植物についてまとめてみました。

【調べてみよう】

ネコジャラシ 「イネ科の一年草。各地の道端や野原に自生。葉は細長く互生。夏、緑色の粟に似た穂を出す。エノコログサ。」
—国語辞典(旺文社)—

エノコログサ (ネコジャラシ) 「日本国内いたる所の平野に普通な一年生草本で高さ 40~70cm 位。全体が緑色、茎は直立し基部で分岐し、往々節で曲がり・・・中略・・・、日本名 エノコロ草は、犬の子草の意味で、その穂が子犬の尾に似ていることからいう。猫ジャラシは、その穂で子猫をじゃれさせるからいうので、これは東京の方言である。」
—牧野新日本植物図鑑(北陵館)—

エノコログサ 「和名は犬の子草の意で、その穂が子犬の尾に似ているといい、また、関東ではネコジャラシと呼ぶ。」
—日本の野生植物1(平凡社)—

【宮城県の場合は】

宮城県でもエノコログサはネコジャラシという言い方が一般的です。子供たちに実物を見せて名前を聞いてみますと、多くの子からネコジャラシという答えが返ってきます。でも、なかには「ケムシ」という子もいます。エノコログサを「ケムシ」といっている子もけっこう多いのです。たしかに、エノコログサの穂をケムシにみたて、「毛虫だぞう」といって人にたけて遊んでいる子も多くみかけます。「ケムシ」もエノコログサの方言の一つということが出来ます。

● エノコログサの仲間たち ●

【エノコログサの仲間たち】

ところで、私達が「ネコジャラシ」とか「ケムシ」といっているものはエノコログサの1種類だけではありません。

県内では7種類が知られており、ごく普通に見かけるものは、**アキノエノコログサ**と**キンエノコログサ**です。それについてよく見られるのが**エノコログサ**です。エノコログサののぎの色が紫色のものを**ムラサキエノコロ**といいエノコログサと同様に見られます。その他、海岸にはえる**ハマエノコロ**、まれに見られる**コツブキンエノコロ**、アワとエノコログサの自然雑種の**オオエノコロ**があります。

どの種類もいっぱひとからげ、みんな同じように「ネコジャラシ」とか「ケムシ」といっているのです。これらの種類は、みんな穂に似たような特色があり、遊びにも同じように使用されます。

どの種類もいっぱひとからげ、みんな同じように「ネコジャラシ」とか「ケムシ」といっているのです。これらの種類は、みんな穂に似たような特色があり、遊びにも同じように使用されます。

【まるでケムシみたい！】

茎から穂の部分を取り離し、手の平で穂をつかみニギニギをしますと、その穂はのぎが外側に開いている方向の反対側に進みます。手の平の中にかくしたのぎが親指と人差指のあいだからによきによき出てきた様子は、まさに大きな毛虫がによきによき這い出してきたというかんじです。2つとか3つの穂を手の平にかくすとか、穂をセロテープでつなぐとかいろいろと遊びを工夫して子供たちと遊ぶのも楽しいものと思います。是非工夫してみてください。



キンエノコロ



アキノエノコログサ

丁度、今がエノコログサ、通称ネコジャラシでの遊びができるよい季節かもしれません。